こんにちは

日本共産党

よねだ　稔

米田 みのるです

Faxも同じです

県議会活動報告
「赤旗」読者ニュース
2020年5月24日
No.974

ケータイは 090-1578-8588
▷事務所 841-2777 ▷県議会控室 823-9524 ▷自宅 841-5468 高知市長浜5183-37

コロナ、米軍の低空飛行

日本共産党 県に緊急要望

5月13日、日本共産党高知県委、感染症対策委部（責任者松本けんじ）、党県議団が、岩城県副知事に要望、懇談しました。（コロナ対策）発熱外来、県下全域24カ所、PCR検査1日216件に拡充した。休業協力金の継続実施は、明確な回答なく重ねて実施を要望。持続化給付金は、申請サポート支援窓口開設、事業者に寄りそって対応する。学生支援は、生活実態調査を要望、県として何ができるか検討する、等回答。（低空飛行訓練）こんな時に。今年90回以上、我慢できない、憤りを感じる、粘り強く要求していく、等述べました。

▲ 岩城副知事に申し入れ、こん談（5月13日）

22～27日 臨時県議会

岡田議員が質問に

コロナ感染症対策補正予算案質疑に、26日(火)朝10時からの本会議に立ちます。（1人15分持ち時間で、3番手）傍聴、ネット中継をご覧ください。

補正予算案16億円余、観光業者に10万円の協力金、コロナ対応の医師等に支給（手当）を計上。

5月15日付高新「声 ひろば」より

より良い日本に

武井恵美子 78 主婦（高知市大津）

私が長女を出産した50年ほど前は、6カ月・1歳と成長の節々に保健婦さんが家庭訪問をし、母親に寄り添って育児のアドバイスがあり安心して子育てをしていた。その後、保健所は次々と統廃合が進みました。今各地にあった保健所が存続していたら、新型コロナウイルスの検査も進み、国民の不信・不安にもっと応え得るデータが出せたのではないかと残念に思う。

この約半世紀は、保健所のみならず、医療・教育・研究機関・社会福祉施策（障がい者・保育・介護・高齢者など）等々の削減を毎年のように強行し、社会的弱者とそれを支える労働者をも苦しめてきた。教育現場も欧米のように1学級20人であれば学校の再開も可能だが、日本では学級を分けなければ再開も困難と予想されている。子どもたちへのしわよせは計り知れない。

コロナからの完全脱却は日本の社会諸制度の貧困ゆえに、長期間かかり経済支援も続けざるを得ない。日々を豊かに暮らせることが、困難や危機を乗り越える力を内在しているように思う。

今後も新型コロナウイルスのような事態は再び起こり得ると予想される。コロナ対応先進国（ドイツ・韓国など）にしっかり学んでそのノウハウを今後に生かしてほしい。国民の命と暮らしを守ることを最優先に、日本の政治の方向転換をしてより良い日本を！と切に願っている。

よね(米)ちゃんの ミニつぶん

政权揺るがす

◎ 安倍政権、自公内閣は18日、検察庁法案の今回会成立を断念しました。

翌19日付高新1面に"世論政権揺るがす"の見出しの解説を報道。「良識の勝利」「民主々義の底力示した」等々、力と勇気が広がります。

◎ 30代女性会社員の8日ツイッター投稿が一気に広がり9百万、1千万人の爆発的な怒りとなりました。天検事総長、特捜OBなども参加、必らず撤回へ!!

◎ 熱中症、コロナに負けず元気に。